



# SANIX

## 2009年3月期 第2四半期 連結決算説明会

株式  
会社 **サニックス**

2008年11月10日

(注) 数値については、単位未満を切り捨てて表示しております。

### 目 次

- |                             |              |
|-----------------------------|--------------|
| <b>1. 2009年3月期 第2四半期の概況</b> | <b>P. 1</b>  |
| <b>2. 2009年3月期 連結業績見通し</b>  | <b>P. 12</b> |

#### 免責事項

本資料には、将来の業績予測に関する記述が含まれています。こうした将来の業績予測に関する記述は、将来業績を保証することを意図するものではなく、一定の前提条件と経営陣の現時点で入手可能な情報に基づく判断に基づくものです。従いまして、将来時点における実際の収益及び業績は、こうした将来の業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。

以下の要因により、将来時点における当社の業績は、本資料内の将来の業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。

日本の景気動向、日本のサービス業の業績動向、他のサービス業者との競争環境、技術革新、規制環境、法律環境及びその他の弊社の予測を超える様々な要因

本資料は当社が発行する証券への投資を勧誘することを企図した資料ではありません。本資料に含まれる情報に基づいて発生した損失・債務に関して、当社は一切の責任を負わない旨をご了承下さい。



株式会社 **サニックス**

## 2009年3月期 第2四半期の概況

### 第2四半期：決算概況

第2四半期累計実績は、前期比、計画比ともに減収減益。

売上高	： 13,412百万円	（計画比5.9%減）
営業利益	： △351百万円	（計画差異 △642百万円）
経常利益	： △368百万円	（計画差異 △643百万円）
四半期純利益	： △737百万円	（計画差異 △965百万円）

■HS事業部門並びにES事業部門は計画比減収となったものの、コスト削減により計画比増益。

■環境資源開発事業部門については、サニックスエナジー苫小牧発電所の売電先変更が計画よりも1ヶ月程度遅れたこと、プラスチック資源開発工場において、原油価格高騰による排出元企業のコスト削減のありを受け、搬入単価が下落したこと等の要因により、計画比大幅に減収減益。

■連結子会社である株式会社イー・ディー・アイ所有の遊休地(山口県下関市)を11月中旬に譲渡することに伴い、減損損失333百万円を特別損失として計上。

## 第2四半期：連結損益の実績と計画差異

(単位:百万円)

連 結	2008/3期		2009/3期					
	中間期		第2四半期累計					
	実績値	売上比	実績値	売上比	前期比	計画値	計画比	計画差異
売 上 高	13,742	100.0%	<b>13,412</b>	100.0%	97.6%	14,256	94.1%	△ 844
(HS部門)	8,287	60.3%	<b>7,975</b>	59.5%	96.2%	8,270	96.4%	△ 294
(ES部門)	1,798	13.1%	<b>1,674</b>	12.5%	93.1%	1,683	99.4%	△ 9
(環境資源)	3,656	26.6%	<b>3,762</b>	28.0%	102.9%	4,301	87.5%	△ 539
売 上 原 価	7,718	56.2%	<b>7,757</b>	57.8%	100.5%	7,796	99.5%	△ 39
売 上 総 利 益	6,023	43.8%	<b>5,655</b>	42.2%	93.9%	6,460	87.5%	△ 804
販 管 費	5,753	41.9%	<b>6,006</b>	44.8%	104.4%	6,168	97.4%	△ 162
営 業 利 益	270	2.0%	<b>△ 351</b>	—	—	291	—	△ 642
経 常 利 益	232	1.7%	<b>△ 368</b>	—	—	275	—	△ 643
当 期 純 利 益	△ 421	—	<b>△ 737</b>	—	—	227	—	△ 965

■ 第2四半期累計の売上高は、各事業部門ともに計画比減収。特に環境資源開発事業部門における計画比大幅減収及び費用増加により、経常損失は368百万円(計画比△643百万円)となった。また、連結子会社所有の遊休地売却に伴う特別損失333百万円を計上したことにより、四半期純損失は737百万円(計画比△965百万円)となった。

**SANIX** 2

## 第2四半期：連結四半期損益の実績と計画差異

(単位:百万円)

連 結	2009/3期						
	第1四半期(4月~6月)			第2四半期(7月~9月)			
	実績値	計画値	計画差異	実績値	計画値	計画比	計画差異
売 上 高	6,583	6,905	△ 321	<b>6,828</b>	7,351	92.9%	△ 522
(HS部門)	3,908	4,097	△ 189	<b>4,067</b>	4,173	97.5%	△ 105
(ES部門)	792	790	2	<b>881</b>	893	98.7%	△ 11
(環境資源)	1,883	2,017	△ 134	<b>1,879</b>	2,283	82.3%	△ 404
売 上 原 価	3,595	3,744	△ 148	<b>4,161</b>	4,052	102.7%	109
売 上 総 利 益	2,987	3,160	△ 173	<b>2,667</b>	3,299	80.8%	△ 631
販 管 費	3,110	3,255	△ 144	<b>2,895</b>	2,913	99.4%	△ 17
営 業 利 益	△ 122	△ 94	△ 28	<b>△ 228</b>	385	—	△ 614
経 常 利 益	△ 124	△ 105	△ 18	<b>△ 243</b>	380	—	△ 624
当 期 純 利 益	△ 143	△ 129	△ 14	<b>△ 594</b>	357	—	△ 951

**SANIX** 3

## 第2四半期：セグメント別損益の実績と計画差異

(単位:百万円)

連 結		2008/3期		2009/3期					
		中間期		第2四半期累計					
		実績値	売上比	実績値	売上比	前期比	計画値	計画比	計画差異
HS 部門	売 上 高	8,287	100.0%	<b>7,975</b>	100.0%	96.2%	8,270	96.4%	△ 294
	売上総利益	5,564	67.1%	<b>5,396</b>	67.7%	97.0%	5,479	98.5%	△ 83
	販 管 費	3,332	40.2%	<b>3,522</b>	44.2%	105.7%	3,707	95.0%	△ 184
	営 業 利 益	2,231	26.9%	<b>1,873</b>	23.5%	83.9%	1,772	105.7%	101
ES 部門	売 上 高	1,798	100.0%	<b>1,674</b>	100.0%	93.1%	1,683	99.4%	△ 9
	売上総利益	692	38.5%	<b>633</b>	37.9%	91.5%	646	98.1%	△ 12
	販 管 費	750	41.7%	<b>641</b>	38.3%	85.5%	665	96.4%	△ 23
	営 業 利 益	△ 57	-	<b>△ 7</b>	-	-	△ 18	-	11
環境 資源	売 上 高	3,656	100.0%	<b>3,762</b>	100.0%	102.9%	4,301	87.5%	△ 539
	売上総利益	△ 233	-	<b>△ 374</b>	-	-	333	-	△ 708
	販 管 費	594	16.3%	<b>670</b>	17.8%	112.7%	581	115.4%	89
	営 業 利 益	△ 828	-	<b>△ 1,045</b>	-	-	△ 247	-	△ 798
配賦 不能	営 業 利 益	△ 1,076	-	<b>△ 1,171</b>	-	-	△ 1,214	-	43

**SANIX** 4

## 第2四半期：セグメント別四半期損益の実績と計画差異

(単位:百万円)

連 結		2009/3期						
		第1四半期(4月~6月)			第2四半期(7月~9月)			
		実績値	計画値	計画差異	実績値	計画値	計画比	計画差異
HS 部門	売 上 高	3,908	4,097	△ 189	<b>4,067</b>	4,173	97.5%	△ 105
	売上総利益	2,649	2,677	△ 28	<b>2,746</b>	2,801	98.0%	△ 55
	販 管 費	1,833	1,984	△ 151	<b>1,689</b>	1,723	98.0%	△ 33
	営 業 利 益	816	693	122	<b>1,057</b>	1,078	98.0%	△ 21
ES 部門	売 上 高	792	790	2	<b>881</b>	893	98.7%	△ 11
	売上総利益	307	302	4	<b>325</b>	343	94.9%	△ 17
	販 管 費	316	330	△ 13	<b>324</b>	334	97.0%	△ 10
	営 業 利 益	△ 8	△ 27	18	<b>1</b>	8	13.4%	△ 7
環境 資源	売 上 高	1,883	2,017	△ 134	<b>1,879</b>	2,283	82.3%	△ 404
	売上総利益	30	179	△ 149	<b>△ 405</b>	153	-	△ 559
	販 管 費	334	284	50	<b>335</b>	297	113.1%	38
	営 業 利 益	△ 304	△ 104	△ 200	<b>△ 741</b>	△ 143	-	△ 598
配賦 不能	営 業 利 益	△ 626	△ 656	30	<b>△ 545</b>	△ 558	-	12

**SANIX** 5

## 第2四半期：HS事業部門ハイライト

### HS事業部門

#### ■ 繁忙期のテレビCMを再開し、顧客基盤強化に注力

当第2四半期累計期間は、テレビCMを展開した効果により、顧客基盤拡大を形成している「白蟻防除施工」が計画比3.8%増、「床下・天井裏換気システム」が同13.9%増となった。しかしながら、高単価商品である「基礎補修・補強工事」は同24.4%減となり、全体の売上高は7,975百万円（計画比3.6%減）となった。

利益面では、販管費を中心にコスト削減が進んだ結果、営業利益1,873百万円（計画比5.7%増）となった。

#### ■ 商品別売上高・営業利益

（単位：百万円）

連 結	2008/3期	2009/3期				
	中間期	第2四半期累計期間				
	実績値	実績値	前期比	計画値	計画比	計画差異
白 蟻 防 除 施 工	2,780	<b>2,990</b>	107.6%	2,880	103.8%	109
基 礎 補 修 ・ 補 強 工 事	3,435	<b>2,440</b>	71.0%	3,229	75.6%	△ 788
床下・天井裏換気システム	1,122	<b>1,283</b>	114.3%	1,126	113.9%	156
家屋補強システム	201	<b>212</b>	105.6%	182	116.4%	29
そ の 他	747	<b>1,048</b>	140.3%	851	123.2%	197
売 上 高 合 計	8,287	<b>7,975</b>	96.2%	8,270	96.4%	△ 294
営 業 利 益	2,231	<b>1,873</b>	83.9%	1,772	105.7%	101

**SANIX** 6

## 第2四半期：ES事業部門ハイライト

### ES事業部門

#### ■ 法人営業体制の確立に注力

当第2四半期累計期間は、引き続き不動産管理会社等へ積極的に営業展開し、法人営業体制の確立に注力。売上高は1,674百万円と計画比0.6%減となり、ほぼ計画どおりに推移。

利益面では、販管費を中心にコスト削減が進んだ結果、収益性が改善し、営業損失は7百万円（計画は18百万円の営業損失）となった。

#### ■ 商品別売上高・営業利益

（単位：百万円）

連 結	2008/3期	2009/3期				
	中間期	第2四半期累計期間				
	実績値	実績値	前期比	計画値	計画比	計画差異
防 錆 機 器 取 付 施 工	456	<b>402</b>	88.1%	397	101.0%	4
建 物 給 排 水 補 修 施 工	512	<b>488</b>	95.3%	497	98.3%	△ 8
建 物 防 水 塗 装 補 修 施 工	320	<b>321</b>	100.1%	291	110.2%	29
そ の 他	508	<b>462</b>	90.9%	497	93.0%	△ 34
売 上 高 合 計	1,798	<b>1,674</b>	93.1%	1,683	99.4%	△ 9
営 業 利 益	△ 57	<b>△ 7</b>	—	△ 18	—	11

※ES事業部門における「活水器取付施工」は、2008年3月期より「防錆機器取付施工」に名称を変更。

**SANIX** 7

## 第2四半期：環境資源開発事業部門ハイライト

### 環境資源開発事業部門

#### ■ 有機廃液処理収入はほぼ計画通り。廃プラ加工処理収入及び売電収入は計画比減収。

当第2四半期累計期間の売電収入は、売電先の変更が計画より1ヵ月遅れとなったことなどにより、売電計画が繰り下がった。また、廃プラ加工処理においては、受入量は順調に推移したものの、原油価格の高騰等による排出元企業のコスト削減のあおりや同業他社との価格競争が激化した影響を受け処理単価が下落した。

この結果、売上高は3,762百万円、営業損失は1,045百万円となった。

#### ■ 商品別売上高・営業利益

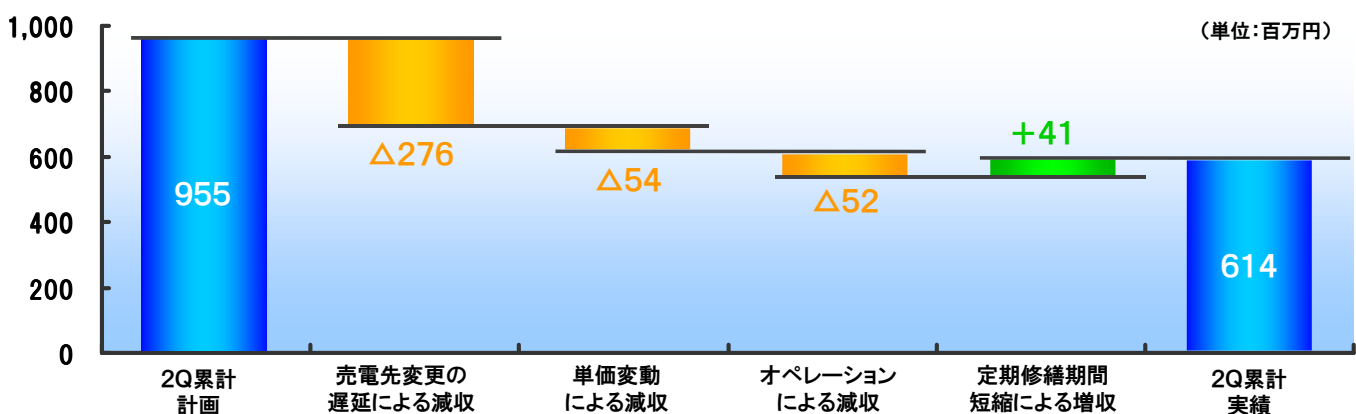
(単位：百万円)

連 結	2008/3期	2009/3期				
	中間期	第2四半期累計期間				
	実績値	実績値	前期比	計画値	計画比	計画差異
廃 プ ラ 加 工 処 理	1,798	1,802	100.3%	2,020	89.2%	△ 218
有 機 廃 液 処 理	919	1,020	111.0%	1,025	99.5%	△ 5
売 電 収 入	256	614	239.2%	955	64.3%	△ 341
焼 却 処 理	503	—	—	—	—	—
そ の 他	178	324	181.7%	299	108.3%	24
売 上 高 合 計	3,656	3,762	102.9%	4,301	87.5%	△ 539
営 業 利 益	△ 828	△ 1,045	—	△ 247	—	△ 798

**SANIX** 8

## 第2四半期：環境資源開発事業部門ハイライト

### 売電収入の計画比減収要因



#### ◆ 売電先変更の遅延による減収

当初計画では5月より変更であったが、変更手続き及び工事に時間を要し、6月より販売開始となった。

#### ◆ 単価変動による減収

売電先変更後の平均売電単価が当初計画を下回った。

#### ◆ オペレーションによる減収

定期修繕時期を例年より遅く実施したことにより、小規模トラブルの発生頻度が高まった。

#### ◆ 定期修繕期間の短縮による増収

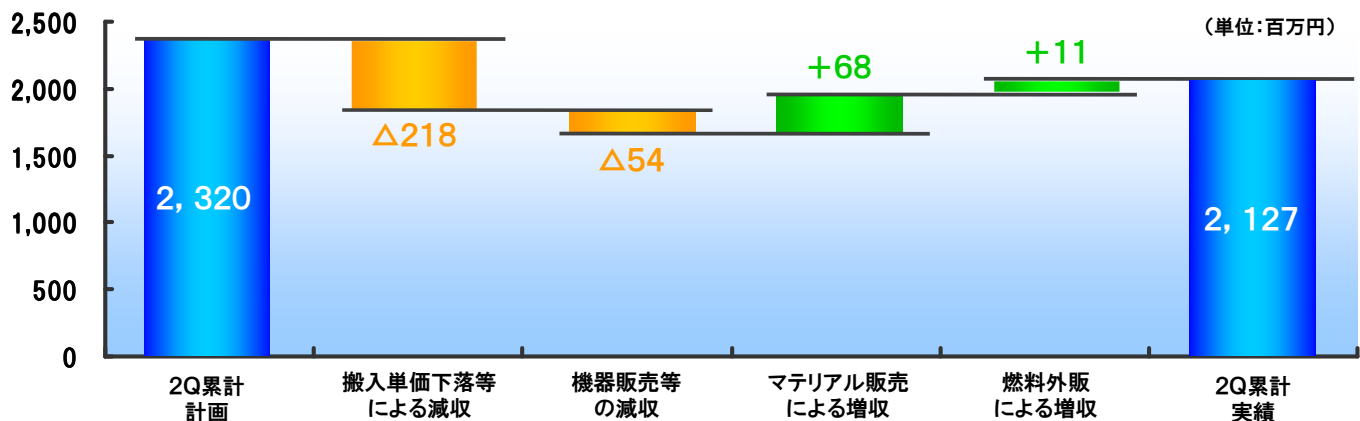
自主点検によるこまめなメンテナンスが奏功し、定期修繕期間を短縮できた。

**SANIX** 9

## 第2四半期：環境資源開発事業部門ハイライト

### プラスチック資源開発工場の計画比減収要因

P.8「商品別売上高」の「廃プラ加工処理」と「その他」の合計値



#### <廃プラ加工処理収入>

##### ◆搬入単価下落等による減収

原油価格高騰等によるコスト削減のあおりや同業他社との価格競争が激化した影響を受け処理単価が下落し(影響額約175百万円)、搬入量が計画比約1,400トン未達となったため、搬入量未達分が減収(影響額約33百万円)となった。また、搬入量未達分の収集運搬売上が減収(影響額約10百万円)となった。

#### <その他>

##### ◆機器販売等の減収

機器販売は、前年同期比プラスとなったものの、計画比では販売数未達。

##### ◆マテリアル販売による増収

販売単価・販売量ともに当初計画を上回ったため、計画比増収。

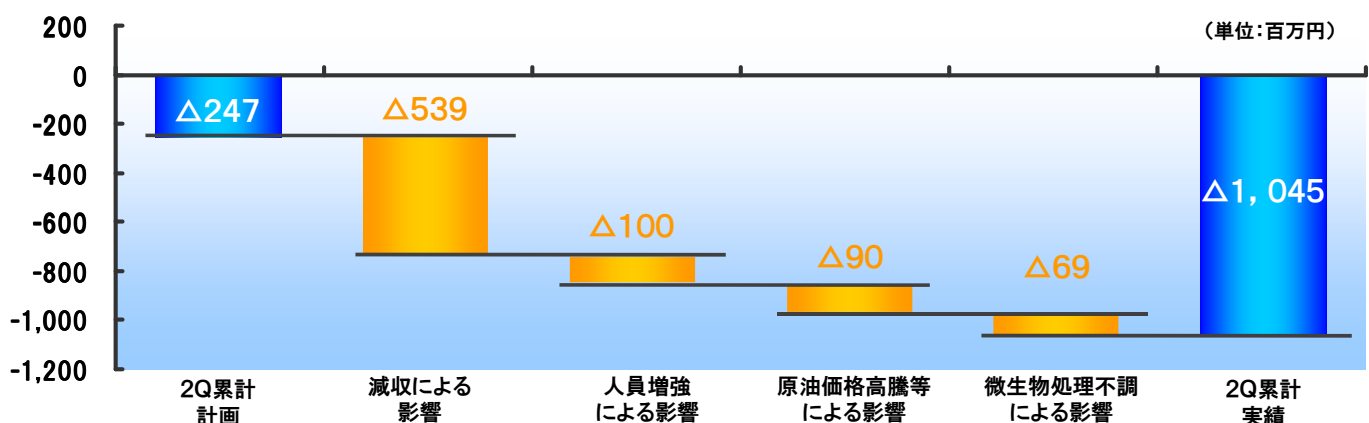
##### ◆燃料外販による増収

販売単価は、ほぼ計画通りで推移したが、販売量が増加したため、増収。

**SANIX** 10

## 第2四半期：環境資源開発事業部門ハイライト

### 環境資源開発事業部門における営業利益計画比減益要因



##### ◆人員増強による影響

搬入単価の下落を受け、搬入量増大並びに品質向上のため、技術職・営業職の採用を、前倒しで実施。

##### ◆原油価格高騰による影響

原油価格高騰により、発電所で使用する補助燃料やプラスチック資源開発工場の消耗品がコスト増。

#### <有機廃液処理工場>

##### ◆微生物処理の不調による影響

微生物処理が不調となったことにより、薬剤処理を余儀なくされ、消耗品費が増加。また、同理由により、停船負担金(外注加工費)も予算超過となった。

**SANIX** 11



株式会社 **サニックス**

## 2009年3月期 連結業績見通し

### 2009年3月期：業績予想の修正について

#### 通期業績見通し

■当第2四半期累計期間における環境資源開発事業部門の業績悪化、並びに景気の後退感による影響が下半期以降に予想されるため、通期業績予想を修正。

【通期予想】	売上高	： 28,000百万円	（当初計画差異 △1,297百万円）
	営業利益	： 630百万円	（当初計画差異 △1,292百万円）
	経常利益	： 600百万円	（当初計画差異 △1,282百万円）
	当期純利益	： 150百万円	（当初計画差異 △1,530百万円）

#### ◆◇セグメント別 下半期の事業方針◇◆

【HS事業部門】⇒引き続き顧客中心の活動を実施。人員補強により、来年春以降の新規顧客獲得に備える。

【ES事業部門】⇒引き続きビル・マンションの管理会社との提携を推進し、営業効率の向上を図る。

【環境資源開発事業部門】⇒プラスチック資源開発工場において、搬入単価下落による減収を搬入量拡大で補うべく、人員補強を推進。また、地区別に責任者を配置し、搬入制限前の過去の取引先顧客を呼び戻すことに注力。

設備面では、各プラスチック資源開発工場及び苫小牧発電所において異物除去システムラインを整備・強化し、金属等異物除去能力を向上させる。



# 2009年3月期：連結業績見通し

(単位:百万円)

連 結	2009年3月期								
	2Q累計	下半期				通 期			
	実績値	修正 計画値	前期比	当初 計画値	差異	修正 計画値	前期比	当初 計画値	差異
売 上 高	13,412	14,588	114.3%	15,041	△ 452	28,000	105.6%	29,297	△ 1,297
(HS部門)	7,975	7,778	105.1%	7,883	△ 105	15,754	100.4%	16,154	△ 400
(ES部門)	1,674	1,800	116.7%	1,820	△ 20	3,474	104.0%	3,504	△ 30
(環境資源)	3,762	5,009	131.1%	5,336	△ 327	8,771	117.3%	9,638	△ 866
売 上 原 価	7,757	7,762	109.6%	7,749	13	15,520	104.9%	15,545	△ 25
売 上 総 利 益	5,655	6,825	120.0%	7,292	△ 466	12,480	106.6%	13,752	△ 1,271
販 管 費	6,006	5,843	109.0%	5,660	183	11,850	106.6%	11,829	20
営 業 利 益	△ 351	981	301.1%	1,631	△ 649	630	105.7%	1,922	△ 1,292
経 常 利 益	△ 368	968	368.1%	1,607	△ 639	600	121.1%	1,882	△ 1,282
当 期 純 利 益	△ 737	887	—	1,453	△ 565	150	—	1,680	△ 1,530

■ 下半期における修正売上計画は、HS事業部門並びにES事業部門は当初計画に対し微減。環境資源開発事業部門においては、第2四半期累計実績を踏まえ、廃プラ加工処理収入が当初計画比約300百万円減収の見通し。利益面は、金融不安により雇用問題が取りざたされている現状を採用の好機と捉え、来期以降に備えた営業戦術補強を実施。人件費増加分を販管費計画に織り込んだ。

**SANIX** 13

# 2009年3月期：連結四半期業績見通し

(単位:百万円)

連 結	2009年3月期							
	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期	
	実績値	前期比	実績値	前期比	修正 計画値	前期比	修正 計画値	前期比
売 上 高	6,583	96.2%	6,828	99.0%	6,917	108.3%	7,670	120.2%
(HS部門)	3,908	91.4%	4,067	101.4%	3,662	102.7%	4,116	107.3%
(ES部門)	792	92.1%	881	94.0%	860	110.0%	940	123.5%
(環境資源)	1,883	110.3%	1,879	96.4%	2,395	117.5%	2,613	146.5%
売 上 原 価	3,595	99.1%	4,161	101.7%	3,817	106.5%	3,945	112.8%
売 上 総 利 益	2,987	92.9%	2,667	95.0%	3,099	110.6%	3,725	129.2%
販 管 費	3,110	107.7%	2,895	101.0%	2,885	107.6%	2,958	110.4%
営 業 利 益	△ 122	—	△ 228	—	214	177.8%	767	373.6%
経 常 利 益	△ 124	—	△ 243	—	203	293.2%	764	394.9%
当 期 純 利 益	△ 143	—	△ 594	—	181	—	706	—

**SANIX** 14

# 2009年3月期：セグメント別業績見通し

(単位:百万円)

連 結		2009年3月期								
		2Q累計	下半期				通 期			
			実績値	修正 計画値	前期比	当初 計画値	差異	修正 計画値	前期比	当初 計画値
HS 部門	売上高	7,975	7,778	105.1%	7,883	△ 105	15,754	100.4%	16,154	△ 400
	売上総利益	5,396	5,271	104.9%	5,269	1	10,667	100.7%	10,749	△ 82
	販管費	3,522	3,361	109.1%	3,254	107	6,884	107.3%	6,962	△ 77
	営業利益	1,873	1,909	98.2%	2,015	△ 105	3,782	90.6%	3,787	△ 4
ES 部門	売上高	1,674	1,800	116.7%	1,820	△ 20	3,474	104.0%	3,504	△ 30
	売上総利益	633	674	128.4%	702	△ 28	1,308	107.4%	1,348	△ 40
	販管費	641	652	97.5%	673	△ 20	1,293	91.1%	1,338	△ 44
	営業利益	△ 7	21	—	28	△ 7	14	—	10	4
環境 資源	売上高	3,762	5,009	131.1%	5,336	△ 327	8,771	117.3%	9,638	△ 866
	売上総利益	△ 374	879	649.7%	1,319	△ 440	504	—	1,653	△ 1,148
	販管費	670	688	119.4%	602	85	1,358	116.0%	1,183	175
	営業利益	△ 1,045	191	—	717	△ 525	△ 854	—	469	△ 1,323
配賦 不能	営業利益	△ 1,171	△ 1,141	—	△ 1,130	△ 11	△ 2,312	—	△ 2,344	32

**SANIX** 15

# 2009年3月期：セグメント別四半期業績見通し

(単位:百万円)

連 結		2009年3月期							
		第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期	
		実績値	前期比	実績値	前期比	修正 計画値	前期比	修正 計画値	前期比
HS 部門	売上高	3,908	91.4%	4,067	101.4%	3,662	102.7%	4,116	107.3%
	売上総利益	2,649	92.7%	2,746	101.5%	2,427	101.3%	2,844	108.1%
	販管費	1,833	110.6%	1,689	100.8%	1,659	108.3%	1,702	109.9%
	営業利益	816	67.9%	1,057	102.6%	767	88.9%	1,141	105.6%
ES 部門	売上高	792	92.1%	881	94.0%	860	110.0%	940	123.5%
	売上総利益	307	91.9%	325	91.1%	312	113.6%	361	144.7%
	販管費	316	83.6%	324	87.4%	320	92.0%	331	103.4%
	営業利益	△ 8	—	1	—	△ 8	—	29	—
環境 資源	売上高	1,883	110.3%	1,879	96.4%	2,395	117.5%	2,613	146.5%
	売上総利益	30	130.8%	△ 405	—	360	273.6%	519	—
	販管費	334	113.7%	335	111.8%	333	117.1%	354	121.6%
	営業利益	△ 304	—	△ 741	—	26	—	164	—
配賦 不能	営業利益	△ 626	—	△ 545	—	△ 571	—	△ 569	—

**SANIX** 16

# 2009年3月期：環境資源開発事業部門見通し

## 環境資源開発事業部門

- ◆ 廃プラ加工処理収入は、下半期も処理単価の下落が続くことが想定されるため、当初計画を大幅に下方修正した。
- ◆ 売電収入は、売電契約変更が遅れたため、当初目標値が下半期に繰り下げとなった。
- ◆ 有機廃液処理収入については、ほぼ当初計画通りを見込む。

### ■ 商品別売上高・営業利益

(単位:百万円)

連 結	2009年3月期								
	2Q累計	下半期				通期			
	実績値	修正 計画値	前期比	当初 計画値	差異	修正 計画値	前期比	当初 計画値	差異
廃プラ加工処理	1,802	2,104	106.3%	2,465	△ 360	3,907	103.4%	4,485	△ 578
有機廃液処理	1,020	1,095	113.0%	1,087	7	2,116	112.0%	2,113	2
売 電 収 入	614	1,421	277.3%	1,450	△ 28	2,036	264.6%	2,406	△ 370
そ の 他	324	387	158.6%	333	54	711	168.3%	632	79
売上高合計	3,762	5,009	131.1%	5,336	△ 327	8,771	117.3%	9,638	△ 866
営 業 利 益	△ 1,045	191	—	717	△ 525	△ 854	—	469	△ 1,323

**SANIX** 17

# 2009年3月期：資源循環型発電事業の見通し

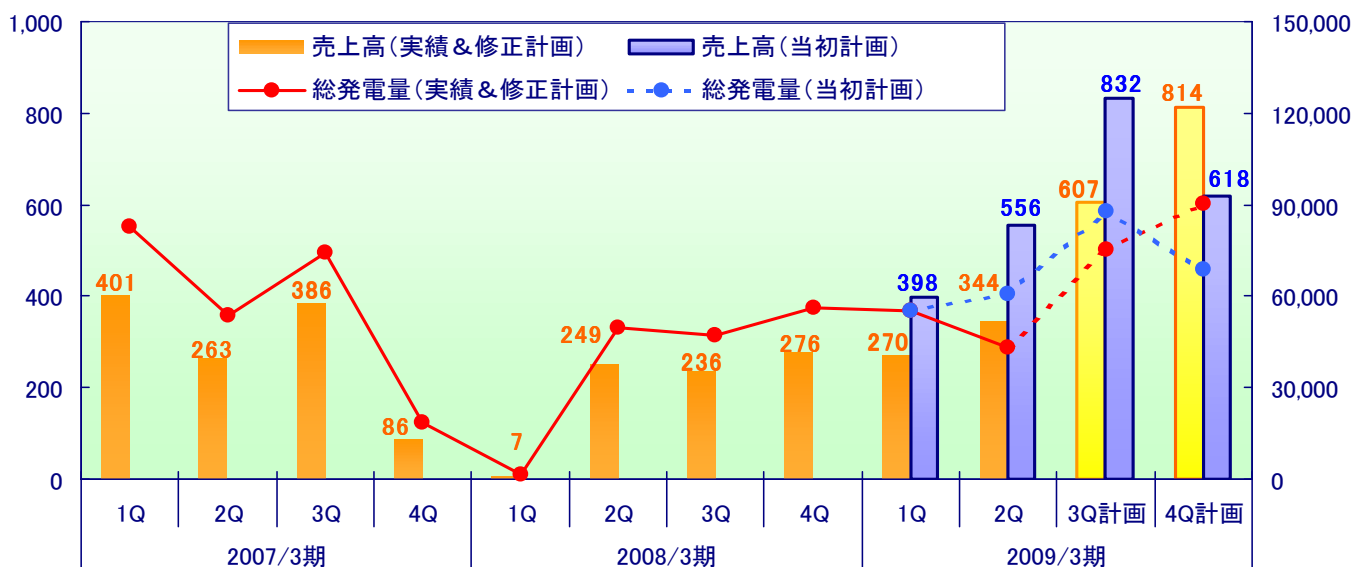
## ■ 年内を目途に異物除去システムラインの整備・強化を終え、第4四半期より発電量増加

売電先の変更に伴い、10月より本格的に発電事業の売上高が増加。定期修繕時に前処理設備に導入した異物除去システムラインを、年内を目途に更に整備・強化し、第4四半期にはボイラーへの燃料供給量増加を図る。

### ■ 苫小牧発電所の売上高・総発電量の四半期推移

(売上高:百万円)

(総発電量: MWh)



**SANIX** 18

# 2009年3月期：廃プラスチック加工処理の見通し

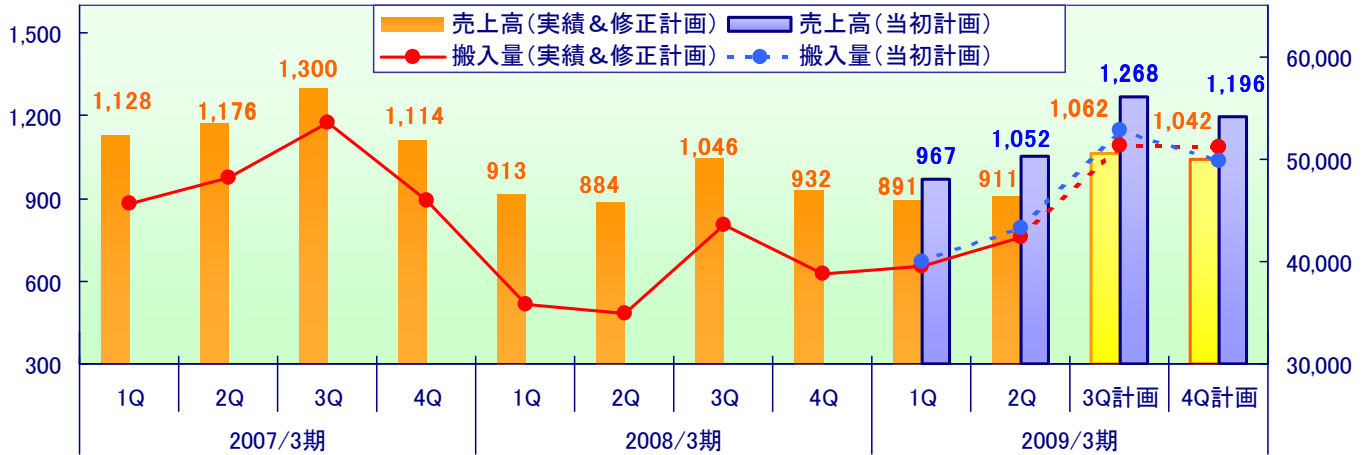
## ■ 年内を目途に異物除去装置を全工場へ導入し、搬入量拡大に注力

- ・年内に異物除去装置を全工場に導入することにより、搬入制限前の過去の取引先の回復に努める。
- ・今秋に原油価格が下落。処理単価回復が予想されるが、搬入量拡大のため第2四半期累計実績と同水準と想定。

## ■ 廃プラ加工処理売上高・搬入量の四半期推移

(売上高:百万円)

(搬入量:t)



<参考:処理単価の推移>

(単位:円)

処理単価 (実績&修正)	24.7	24.4	24.3	24.2	25.5	25.3	24.0	24.1	22.5	21.5	20.7	20.4
処理単価 (当初計画)									24.2	24.3	24.1	24.0

**SANIX** 19

# 2009年3月期：下半期以降の見通し

2009年  
3月期

第3  
四半期

HS事業部門は、来期を見据えて人員補強・教育を実施。

ES事業部門は、引き続き法人営業を強化。

環境資源事業部門は下記施策を実施し、当初計画ラインへの復帰に注力。

<営業面> 地区別管理を整備・強化し、搬入制限前の過去の取引先の回復に注力。

<操業面> プラスチック資源開発工場及び苫小牧発電所の異物除去システムラインを整備・強化し、搬入制限前の過去の取引先を回復することへの障害を除去。

第4  
四半期

HS事業部門・ES事業部門は、引き続きほぼ当初計画通り。

環境資源事業部門は当初計画ラインへ復帰。

2010年  
3月期  
以降

中期経営計画「Spring plan2010」(2008年4月22日策定)の最終目標値である「2011年3月期に営業利益率10%」の達成を見込む。

**SANIX** 20